



## プレス発表

平成23年3月23日  
原子力安全委員会

### 緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）の試算について

#### 【経緯】

原子力安全委員会では、3月16日より、緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）による試算のために、試算に必要となる放出源情報の推定に向けた検討をしてまいりました。3月20日から陸向きの風向となったため、大気中の放射性核種の濃度が測定でき、限定的ながら放出源情報を推定できたことから、本システムの試算を行うことが可能となりました。

これをもとに試算した結果は、別紙のとおりです。

#### 【評価】

- 本試算は、福島第一原子力発電所の事故発生後、連続して一日中屋外で過ごすという保守的な条件を仮定して、甲状腺の被ばく線量を試算したものです。
- ただし、屋内では屋外と比べて4分の1から10分の1に放射線の影響を低減させることができます。
- 本試算は、限定的な情報しか得られていない状況下で試算されたものであり、今後、この試算の精度を高めるために、モニタリング結果を充実させていくことが必要です。



### 内部被ばく臓器等価線量

日時 = 2011/03/12 06:00 - 2011/03/24 00:00 の積算値

領域 : 92km X 92km  
 核種名 = ヨウ素合計  
 対象年齢 = 1歳児  
 臓器名 = 甲状腺

【凡例】  
 線量等値線 (mSv)

1= 10000	———
2= 5000	.....
3= 1000	- - - - -
4= 500	- · - · -
5= 100	- · · · -

### (評価)

本試算は、福島第一原子力発電所の事故発生後、連続して一日中屋外で過ごすという保守的な条件を仮定して、甲状腺の被ばく線量を試算した

SPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測)ネットワークシステムは、原子力施設から大量の放射性物質が放出されたり、あるいは、そのおそれがあるという緊急時に、周辺環境における放射性物質の大気中濃度や被ばく線量などを、放出源情報、気象条件および地形データをもとに迅速に予測するシステムです。

国・地方公共団体は、SPEEDIネットワークシステムが予測した情報により、周辺住民のための防護対策の検討を迅速に進めることができます。